## ❼——文　化

**＜市民に芸術創造の場＞**——横浜文化という言葉に，エキゾチシズムを感ずる人は今なお多いようである。しかし，エキゾチシズムの時代はすでに去り，近代文化が定着して久しい。ところが，最近では，それすらも文化密度の高い東京に吸収されてしまい，横浜における文化の不毛が嘆かれていることも事実である。

39年に行なった指定都市共同の「文化度調査」のなかに，横浜市民を特徴づけるものとして「教養主義」をみることができる。「よりよい生活のために最も充実させたいもの」は「教養・教育」だと答えている割合が，他の5大市をひき離している。このような新しい基盤の上に，横浜文化の創造を期待したい。

39年4月，市民のだれでもが自由に出品・展示できる文化活動の場として，市民ギャラリーを開設した。桜木町駅前の，元の中区役所を改造して開放したのである。開設以来，ここではほとんど毎日なんらかの展覧会が行なわれており，1年に約10万人の入場者を数えている。学校や市民の間の創作グループが

■ 表2－2－16　市民ギャラリー利用状況　（41年8月現在）

| | |
|---|---|
| 総合美術展 | 17 回 |
| 絵画展 | 25 |
| 絵画彫刻展 | 10 |
| 書道展 | 15 |
| 写真展 | 10 |
| 生花展 | 2 |
| ポスターデザイン展 | 2 |
| 建築展 | 1 |
| 工作展 | 1 |
| 計 | 83 |

つぎつぎと力作を発表しており，ハマ展・太平洋美術展・勤労者美術展などのほか，ポスター展，建築展などにも広く利用されている。

市民ギャラリーが自主的に開催している美術展としては，横浜に関係ある美術家の作品500点を展示した「横浜総合美術展」，日本の新しい世代を代表する美術家による「今日の作家展」，内外一流作家の「世界現代美術展」などがある。また夏の「子ども美術展」では幼稚園から中学生までの児童から作品を公募し，集まった全作品3,600点が全館を埋めた。これらは主としてグループの作品発表の場であるけれども，41年6月からは個人の作品をいつでも発表できる自由展示コーナーを設けている。個展などということではなく，私たちが制作したものを，たとえ1点でも2点でも自由に持込んで無料で展示できるようにしたものである。

39年には，市内の7つのアマチュア劇団が集って協議会が結成された。なかには15年以上の歴史をもつ劇団が4つもある。勤労者・学生によるこの活動は東京のような所ではかえって健康な発展が期待できないためか，横浜の演劇活動が全国のアマチュア劇

団の活動をリードし，大きな刺激を与えている。39年から毎年市の後援で，横浜において全国アマチュア演劇研究大会が開催され，各地方のグループの力演がくりひろげられている。42年度完成予定の横浜東口スカイビルの中に，小劇場がつくられることになっている。この小劇場に，市内のアマチュア演劇の上演日が，一定期間常設されることに決まりつつあるので，これが契機となって，市民的な規模への演劇活動の発展が期待される。

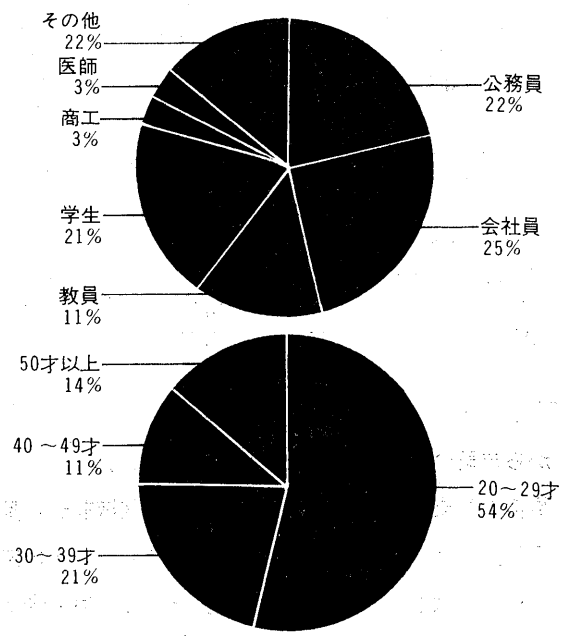
横浜を代表するもう一つの文化活動に横響がある。昭和8年の第1回から，200回を越える定期演奏会を重ねているアマチュア交響楽団である。教育委員会の主催で，市内各地域の子どものために巡回演奏会も行なっている。

毎年9月から3カ月間，横浜文化祭の行事がくり広げられる。横浜から生まれた新人の演奏会，職場団体の合唱祭，各流派の競演する横浜能などの催物があり，市民文化の振興がはかられている。

**＜市民とむすぶ市立大学＞**――どこの都市でもそこの市民の文化的水準をリードするものは地元の大学である。横浜市大は34年に発足，38年には金沢区の大学構内に鉄筋コンクリート3階建て，研究室など99教室の近代的校舎が完成した。さらに40年には工費2億円で3階建て，冷暖房を完備した図書館・学生ホールを建設，総合大学として整備されてきた。

また大学を真に市民のためのものとするため，39年から大学を市民に開放する「公開講座」をはじめた。医学や経済・哲学の分野に至るまで興味深いテーマで講義がなされている。41年7月まで講義はすでに39回，聴講生は3,000名を数えている。

■図2－2－21　市大公開講座開催の状況（聴講者内訳）




※総数 3,000余名のうち男は71%，女29%

40年には，はげしさを増している都市問題について体系的に認識を深め，解決への手がかりを得るために一般市民，学生，市職員を対象に都市問題講座を開いた。講師は市大教授に限らず，各分野のトップレベルの研究者があたっている。

野毛山の市立図書館では文学教室，美術教室，音楽教室などの「教養セミナー」を開講していたが，41年は保土ケ谷，鶴見，南区の各地域でセミナーを実施することにした。また，坐って利用者を待っている図書館から，利用者の所へ出向いていく図書館へとの態勢をつくり，市内39カ所の青少年の家に図書300～500冊を貸出したり，職場・婦人会などの読書グループ100団体にも30～100冊の貸出を行なっている。これら合わせて約2万冊の図書が，常時図書館

■ 表2－2－17　団体貸出利用状況

| 区　分 | 団体数 | 貸出冊数 | 利用人員 |
|---|---|---|---|
| 一般読書会 | 26 | 7,518 | 17,051 |
| 青年団 | 4 | 470 | 571 |
| 婦人会 | 8 | 1,582 | 3,799 |
| 子供会 | 8 | 1,160 | 2,553 |
| PTA | 21 | 5,735 | 7,947 |
| 民間図書館 | 2 | 470 | 536 |
| 職場団体 | 17 | 4,117 | 7,843 |
| その他 | 5 | 1,298 | 3,113 |
| 町内会 | 33 | 29,638 | 46,937 |
| 計 | 124 | 51,988 | 90,350 |

出所：市立図書館資料

から市民の手に運ばれて利用されている。

横浜の歴史は浅い。しかし市域内には開港前から貴重な文化財，遺跡が少なからず残っており，市民文化創造の大きな糧になっている。そして，称名寺所蔵絵画の補修，三殿台遺跡の保存などに意をそそいでいる。磯子区岡村町にある三殿台遺跡は，縄紋・弥生・古代の3時代にわたる集落遺跡であり，38年以来保存協議会を発足させ，検討してきた。そして，ここを埋蔵文化財のセンターにするべく，出土品の収蔵庫，覆屋などの施設を整備し，復元住居の建設にとりかかっている。

多くの重要文化財を集めている三渓園も年々整備がつづけられ，40年には松風閣・天望台が新築された。三渓園の背景を構成している丘陵のすぐ後では宅地開発が進んでおり，このままでは景勝が台無しになる危険が強くなっている。そこでこの部分の土地を買収して保存をはかることにした。

文化財保護と並んで，横浜市史の編さんも着々と続けられており，40年には本編第4巻上を出し，明治後期の横浜をとりあげた。また資料編としては3巻上を刊行し，明治維新の外交文書である「続通信全覧」を収録した。

**❸――産業と貿易**

**＜中小企業対策に重点をおく＞**――――昭和39年のなかばから進行した不況は依然として続いており，中小企業は困難な事態に直面している。とくに深刻な求人難，資金難の今日，体質改善をめざして技術革新を進めながら過当競争に耐えてゆくのは，容易なことではない。京浜工業地帯の中核をなしている横浜も中小企業はきわめて多く，不況にあえいでいる現状である。そこで市は中小企業対策を重視してつぎの施策を行なった。

第1は，中小企業指導センターの設置である。これは，従来バラバラに行なわれていた中小企業指導を一元的に行なって，中小企業者の利用しやすい形にと改組したものである。すなわち，それまでの中小企業課指導係，輸出工芸指導所，中小企業相談所の三者を39年3月に統合，発足した。これにより中小企業者に対する技術向上，経営管理の両面からの指